

## 越後とちお温泉について

### 1 温泉を利用した「公施設」と「民施設」の考え方

	公施設	民施設
機能	福祉向上、健康増進、交流（近隣）	観光（娯楽性、集客性）、交流（広域）
利用対象者	主に栃尾地域の住民	市外を含めた広域の住民
施設のイメージ	<ul style="list-style-type: none"><li>・市民の交流や福祉・健康を目的とした憩いの場</li><li>・風呂、和室、自動販売機など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域振興や交流人口の増を目的とした観光の場</li><li>・大浴場、露天風呂、サウナ、大広間、食堂、売店、自動販売機、マッサージなど</li></ul>

### 2 温泉を利用した「民設の施設整備」に対する市の考え方

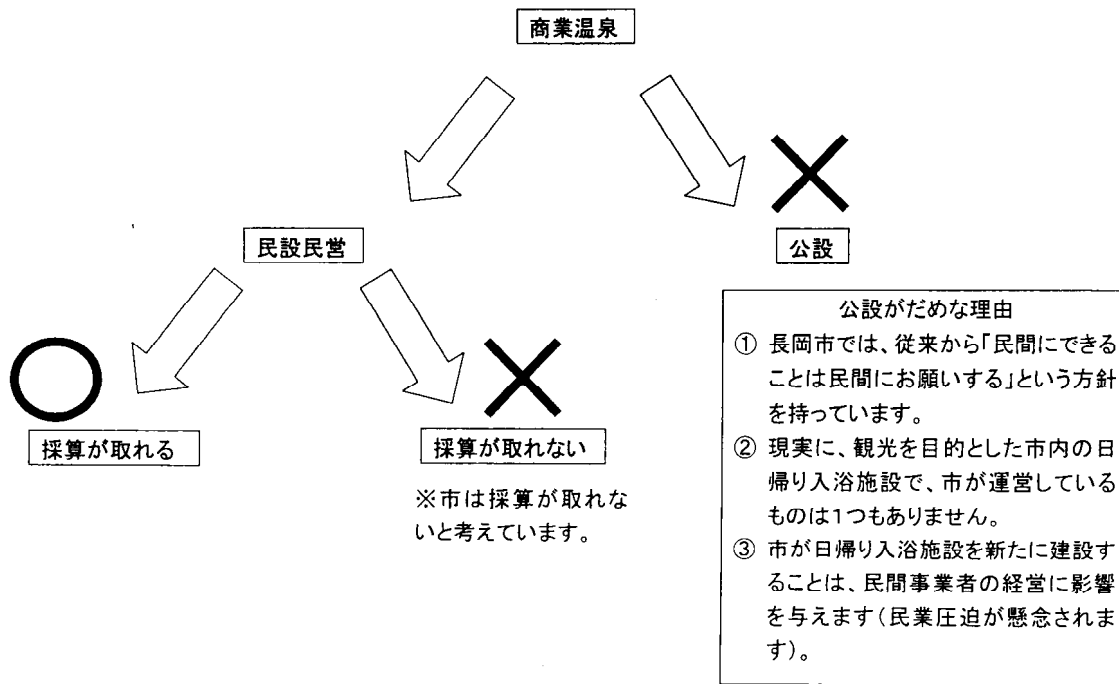
#### ■基本的な考え方

「地域の活性化や交流人口の増加」といった目的を達成する手段として、市が日帰り入浴施設（観光目的）を整備することは考えていません。

#### □その理由

- ①長岡市では、従来から「民間にできることは民間にお願いする」という基本的方針を持っています。
- ②現実には、観光を目的とした市内の日帰り入浴施設で、市が運営しているものは一つもありません。
- ③市が日帰り入浴施設を新たに建設することは、民間事業者の経営に影響を与えます（民業圧迫が懸念されます）。
- ④したがって、市は温泉を利用した観光的な施設の整備は考えていません。

1 長岡市は、温泉資源を利用した商業温泉施設について以下の方針を持っています。



2 長岡市は、公設施設における温泉の活用について以下の方針を持っています。

